

■ 令和7年度 第2回 いきいき西区ささえあいプラン推進委員会

日 時：令和7年9月30日（火）午後2時～

会 場：西区役所健康センター棟1階104・105会議室

◇次第1 開会

（須貝係長）

定刻となりましたので「令和7年度第2回いきいき西区ささえあいプラン推進委員会」を始めさせていただきます。本日、進行を務めさせていただきます西区健康福祉課地域福祉担当係長の須貝でございます。よろしくお願いします。

本日の委員会は、コミュニティ中野小屋 小竹委員、山田校区ふれあい協議会 阿部委員、でこぼこ西の会 板井委員から欠席の連絡がありましたのでご報告いたします。

本日の会議ですが、後日、会議録を公開するため、録音をさせていただきます。また、内部の記録として会議の様子を撮影させていただきますのでご了承ください。

本日の委員会ですが、西区社会福祉協議会に実習に来ている学生も参加させていただきます。実習生を紹介させていただきます。

（実習生紹介）

◇次第2 あいさつ

（須貝係長）

ありがとうございました。実習生にはこの後のグループワークも参加させていただきます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、青木委員長よりご挨拶をいただきます。

（青木委員長）

冒頭に紹介いただきましたが、私の大学の学生がお世話になります。現在3年生で将来社会福祉士になるために実習に来させてもらっています。グループワークの中で学ばせてもらうことも多々あるかと思いますがよろしくお願いいたします。

現在、県内のある市町村の総合計画を策定中で、教育と福祉の分科会の役員をしているのですが、ある集落で比較的年齢の若い方が孤立死をなさっていたということがありました。その方は日ごろから持病があることを近所の人が知っているわけではなく、俗に言う高齢者の一人暮らしで地域の人に見守ってもらっている対象ではなかったという状況で、お亡くなりになってから発見されるまでに5日もかかったということでした。たまたま近所の方が郵便受けに

新聞が溜まっていたのに気付いて、警察に連絡をして家に入ったら発見に至ったということです。近所の人にすればお年寄りだからということではなく、一人で暮らしている方でも気にかける存在の方がいるのではないかと反省する機会になったそうです。

本日のグループワークの中では地域の人の確保がテーマになっております。孤立死防止でも地域のリーダーがぐいぐい引っ張っていくようなところは上手くいきますし、西区らしく西区でできることを色々知恵を出していただいて、出た知恵を地域の中に活かしていただければと思います。本日は限られた時間ではありますがよろしくお願いいたします。

◇次第3 グループワーク（1）各地区活動報告

（須貝係長）

ありがとうございました。続きまして次第3「グループワーク」に移ります。ここからの進行は、西区社会福祉協議会の相田副主査にお願いいたします。

（相田副主査）

皆様お疲れ様です。西区社会福祉協議会の相田と申します。ここからは私の方でグループワークの進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

では、まず（1）「各地区の活動報告」をグループ内で行っていただきます。併せて自己紹介も各グループでお願いいたします。各地区の懇談会で話し合われた内容をすべてではなく、特に地域で力を入れていきたい取り組みや、新しく始める取り組みなどを中心に話していただきたいと思います。進行は各グループの2層の支え合いのしくみづくり推進員（SC）にお願いしたいと思います。地域選出以外の委員の方は、グループで出された取り組みについて、気になることがあったらグループ内で聞いていただく機会となればと思います。A3サイズの白紙の用紙がありますので、自由に記録で使用してください。記録係は申し訳ありませんが、グループ内で決めていただけるとありがたいです。時間は30分間です。

（各地区活動報告についてグループワーク）

（相田副主査）

時間が来ましたので、各グループで振り返った内容を共有していただきたいと思います。1グループからお願いいたします。

（阿部 SC）

包括支援センター小新・小針の阿部です。1グループの振り返りを発表します。

内野小学校区の昨年度の振り返りで、コロナ禍を経て自治会ごとに取り組みなどに差が出ているようで、プランの中でも「行事を通じて顔の見える関係づくり」を掲げているが、コロナ

禍後、途絶えてしまった行事を再開できたところもあれば、再開できていないところもあったりして、各自治会によって取組状況が違うという意見がありました。また、子育て世代はお子さんと一緒に地域活動に参加することが多いのですが、子育てが終わってしまうと地域活動に参加する機会が少なくなることが課題だという意見もありました。今年度は「子ども」がキーワードになりますが、青木先生のお話にもあったように、高齢者でもなく、子どもでもない、見守りの対象外になる方についても、地域全体で見えていく必要があるのではないかという話がありました。また、一押しの取り組みは「こども食堂」ということで、コミュニティ協議会の後援を受け、まちづくりセンターで休日の昼間にやっているそうです。最初は高齢者の方の孤食解消がターゲットでしたが、やっていく中で小さい赤ちゃん連れのママも来てくれて、お子さん連れでご飯を食べに外出することが難しい中で、子ども食堂だったら立ったままやあやしながら食べたりすることもできるので、そういうニーズがあると分かり今後も力を入れていきたいということでした。

立仏小学校区では、健康体操やウォーキング、小学校と共催の防災教室を一生懸命やっていて、今年度も継続してやっていきたいということでした。また今年度新たな取り組みとして、民生委員と自治会長、ふれあい協議会の役員との顔合わせ会を行ったとのこと。自治会長の中には民生委員が誰なのか分からないということが課題でしたが、この会を通して民生委員との顔合わせができたのでいい機会となったとのことでした。

東青山小学校区では毎年福祉講演会を開催していて、今年度は終活をテーマに開催するそうですが、いつもは東青山コミュニティ協議会の拠点であるコミュニティ広場や小針青山公民館で開催しているそうなのですが、高齢で足が悪い方や車を運転できない方は、行きたくても行けないという課題があったので、今年度は新たな取り組みとして2か所の自治会に出向いて、自治会と共催で開催するそうです。コミュニティ協議会から自治会や地域に話題提供など働きかけを行って、そこから自治会の中で広がっていくといいなとのことでした。

青山小学校区では毎年敬老会を行っており、今年も130人の参加があったそうです。ほかに日々の高齢者の健康づくりとして、月2回の体操教室を地域の事業者から教えてもらっており、終わった後にお茶を飲んだりお菓子を食べたりしているので、顔なじみの関係ができ、地域のイベントがあったら一緒に行こうよと言って誘い合って参加するような関係性ができているということです。また「おしゃべりカフェ」という子育てサロンがコロナ禍でずっと休んでいたが再開されて、口コミで広がり103人の参加があったということです。今年度は文化祭をやったり、一昨年から包括支援センターと一緒に「徘徊模擬訓練」を地域の方とやっているのですが、今年は地域の方で認知症の家族の介護をやっていた方、今現在進行形でやっている方の生の声を聞くシンポジウムを10月末にコミュニティ協議会でやろうということで現在計画中です。

1 グループは以上です。

(相田副主査)

ありがとうございました。では、2グループ、よろしくお願いします。

(渡邊 SC)

地域包括支援センター黒埼の渡邊です。2グループの振り返りを発表します。

西内野小学校区では、昨年度買い物バスツアーを開催し、30人くらい乗れるような大型のバスをチャーターして、各自治会で年2回ほど開催したということです。大変喜ばれたという声があったので今年度も実施したいということです。また例年除雪の不安があるということで、今年度は除雪の助け合い活動について各住民に対してアンケートなどを取りながら解決していきたいというお話がありました。

小新中学校区では、昨年度「てくてくウォーキング」という健康増進のための活動や「オータムフェスタ」を開催しました。「オータムフェスタ」は学校と共催で行っているので、非常に多くの人が集まって盛り上がったということです。ただ、人が集まるものがある一方、自治会で開催する講座だとなかなか人が集まらず大変だったというお話がありました。来年度は「てくてくウォーキング」や「オータムフェスタ」を継続していければというお話でした。

小針小学校区では、昨年度新潟医療センターの医師に来ていただいて講座を開催し50人くらいの参加者があったということです。また、防災にも力を入れていて、防災教育や防災訓練を開催すると1,100人ほど集まったとのお話でした。来年度も活動を継続し、子どもの安心安全のための見守りを兼ねたウォーキング活動をしていきたいとのことでした。

(相田副主査)

ありがとうございました。それでは、3グループ、よろしくお願いします。

(古寺 SC)

地域包括支援センター赤塚の古寺です。3グループの振り返りを発表します。

赤塚中学校区では、乳幼児とそのお母さんをサポートしていく「あひるの子」という取り組みがあり、今年は年6回予定されています。この取り組みはコロナ前からやられていて、年々定着しており、回を重ねるごとにお母さん同士のつながりも強くなっているというお話がありました。またこちらの地区では、自治会長と民生委員との懇談会を早くから開催しており、早急な成果を求めず長い目で続けていきたいということでした。私も今年の2月に出席したのですが、その際は認知症に対する模擬訓練を実施されており、認知症で独り歩きされている方に対してどのような声掛けをするかということを実施されていました。

五十嵐小学校区では、赤塚中学校区と同様に乳幼児と母親をサポートする「ふうせんクラブ」という取り組みを毎週火曜日の午前中に開催しているとのこと。この取り組みは、乳幼児を抱えたお母さんが少しの間でも育児から解放されてほしいという狙いがあるということです。またこちらの地区では勉強会を盛んにされていて、昨年度は終末期医療についての市民講座を

活用したところ、50 人の参加あったということでした。終末期医療というテーマだったので果たして人が集まるか不安だったそうですが、多くの方が参加してくれたということです。ほかにも県の薬剤師協会と提携した薬の話や救急対応等の講習会も行ったということです。またフードバンクへの支援協力も行っているということでした。

大野小学校区ですが、この地区の特徴として、もともと元気がよく黒埼町の中心であったのが、次第に高齢化が進んで今では周辺の地区の方が元気があるという状況だそうで、その中で茶飲みなどもしているそうですが、活性化という部分で女性のパワーが非常に大きいというお話でした。防災面では、3か所の避難所で関係機関や学校も含めて訓練を実施しているということです。またその中で、緊急時や災害時の個人情報の取り扱いをどうするかという話があったとのことでした。

(相田副主査)

ありがとうございました。それでは最後、4グループ、発表をお願いします。

(高澤 SC)

地域包括支援センター坂井輪の高澤です。4グループの振り返りを発表します。

坂井輪中学校区からは、年3回紙ベースで実施している広報活動について、SNSの活用を取り組みとして挙げていたそうですが、昨年度は活用まで至らなかったということで、今年度は実現したいという話が出ておりました。また自治会、民生委員、友愛訪問員を含めた勉強会である三者合同研修会を行っているが、自治会の参加が少ないことが課題で、今年度を含め3年間の計画で認知症についての勉強会を予定しているが、なるべく自治会の方が参加できるようなテーマとしながら活動を進めているというお話でした。また部活動の地域移行による中学生の放課後の過ごし方への不安があり、その対応として、坂井輪中学校の生徒、保護者、まち協とで「井戸端会議」のようなものを検討しているとのことでした。

黒埼南小学校区ですが、ほかの地区でも出ていましたが、自治会と民生委員の情報の共有の場が少ないという声が上がっており、また今年度は民生委員の改選があるため、改選した民生委員と自治会長とで話し合いができるような場を作ろうと現在検討をしているということです。次に地域の方の寄付で開催している「みんなの花火」について、最初は数名から始まった活動だったそうですが、今はそれが少しずつ拡大してきているということで、今後も継続していきたいという話が出ているということでした。また、健康についての意識を改善したいということで、北区にあるリハビリテーション病院の理学療法士の方に来てもらい、歩くことがとても大切だということを発信しているとのことでした。

真砂小学校区ですが、「いきいき西区ささえあいプラン」自体について周知が十分にできていなかったという反省があり、今後はもっと周知できるようにしたいという話がありました。今年度はヤングケアラーについての勉強会を検討しているとのことでした。こちらの地域には明

倫短大があり、学生が活発にボランティアをしており、真砂小学校や地域との交流をしているということでした。また、真砂小学校で文化祭や色々な活動があるそうですが、小学校まで出向くことが難しい方も多いため、大型タクシーを頼んで、地域の方が気軽に乗り合わせて送迎を行う取り組みを実施しているそうです。また、今年は非常に暑かったということで、急遽夏休みに真砂会館を開放して子供たちが自由に使える場として「まさごオアシス」を開設されたとのことで、来年以降や冬休みにも開設できればというお話でした。以上です。

(相田副主査)

ありがとうございました。ここで、本日欠席している中野小屋中学校区と山田小学校区の振り返りについて共有させていただきたいと思います。

中野小屋中学校区では、昨年度の取り組みの中で、親子三代ふれあい会と瑞穂祭について、様々なところから協力をいただき無事開催することができたという話をいただいています。また、コロナ禍ずっとできていなかった「冬休みみずほキッズらんど」、昔は「宿題を仕上げる会」というものをしていたが、そちらを復活させることができました。大学生だけではなく、みずほ福祉会や包括支援センター、社協など様々な関係機関が協力し、たくさんの子どもが集まって、宿題を仕上げたり、地域の方と交流をしたりととてもいい機会になりましたというご報告をいただいています。また、昨年8月に自主防災組織が発足したということで、西区の新しいハザードマップを周知し、今後活用していきたいという話がありました。今年度取り組んでいきたいこととして、親子三代ふれあい会、瑞穂祭を続けていきたいという話がありました。また、昨年度は「冬休みみずほキッズらんど」が冬休みのみの開催だったのですが、今年度は夏休みに「みずほキッズらんど」をすでに行なうことができています。冬休みもまた継続して回数を増やして開催したいということでお話がありました。また、4番「高齢者がつながりを持ちながら、いきいきと過ごせる地域づくり」という大項目の中では、地域の茶の間の継続のところで、今地域にある茶の間を地域にこだわらず、高齢者だけではなく、若い人や子どもなどみんなが参加できるように進めていきたいというお話をいただいています。

山田小学校区では、コロナ禍でできていなかった夏祭りや盆踊りが、コロナ禍前以上に盛況で、人との交流という点でとても良かったとのお話がありました。また、子どもとの交流の部分で、山田小学校の4年生とウォーターシャトルに乗って信濃川の勉強会を開催したそうです。小学生だけではなく、地域の方も一緒に参加したということで報告をいただいております。今年度取り組んでいきたいこととして、年1回カラオケ発表会を開催しているが、大事な交流の機会ということで、今年度も引き続き継続したいというお話をいただいています。また、2番の「地域芸能の継承・地域交流活動の活性化」の部分では、「出会いの場があるといい」という地域の方からの声で、山田の盆踊りを高齢者だけでなく、若い世代の家族や様々な人が来てみんなで踊れるようなものにできるといいなというお話がありました。以上です。

ここまで各グループより地区懇談会の振り返りを発表していただきましたが、質問等ありますでしょうか。気になる活動など聞きたいことがありましたら挙手をお願いいたします。

(質問なし)

◇次第3 グループワーク(2) 事例検討

(相田副主査)

続きまして、次第の(2)事例検討です。テーマは「担い手の高齢化、担い手不足の明日を考える」です。自分たちの地域で人材育成や人材発掘の取り組みを行っているところはぜひグループ内で共有していただきたいですし、「このようなものがあつたらいいのではないか」という新しいアイデアも大歓迎です。グループワークの時間は30分間です。それではお願いします。

(グループワーク)

(相田副主査)

それでは時間が来ました。ここからは各グループでどんな意見やアイデアが出たか発表していただきたいと思います。それでは今回は4グループからお願いいたします。

(高澤SC)

4グループについて報告します。

- ・担い手不足解消のためには、若い世代が地域への関心を持つ仕組みが必要。
- ・PTA活動(遠足・運動会など)で関わる保護者を地域活動へ誘導する工夫が課題。
- ・小学校区など小規模単位での活動推進が効果的。
- ・地域イベントや祭りを通じて参加者をつなぎ、地域への関心を高める。
- ・SNSなどデジタルツールを活用した広報が若年層へのアプローチに有効。
- ・民生委員と自治会の連携強化を通じて、地域理解の促進を図る必要がある。

以上について意見がありました。

(相田副主査)

4グループ、ありがとうございました。続きまして、3グループ、お願いします。

(古寺SC)

3グループです。新潟医療福祉大学の実習生がグループにいらっしゃったので、実習生さんのボランティア経験(花火大会など)から得た意見を共有しました。

- ・「ありがとう」と感謝される体験がモチベーションとなり、継続的なボランティア参加につながる。

- ・受け入れる側も「感謝の言葉」や「気遣い」を大切にすることが重要。
- ・短時間で気軽な“ちょこっとボランティア”や有償ボランティア制度の併用も有効。
- ・若い世代が「楽しい」と感じられる仕組みづくり、小さい頃からの関わり、リーダー候補の育成が大切。

以上について意見がありました。

(相田副主査)

3グループ、ありがとうございました。続きまして、2グループよろしくお願いします。

(渡邊 SC)

2グループです。私たちのグループはまず課題について整理しました。

- ・定年延長により、65歳で地域活動に参加する人が減少している。
- ・民生委員・自治会役員などの後継者不足、公園やごみステーション清掃などで人手不足が顕著。

以上が課題です。その解決策として、

- ・現役世代への早期からの役割付与・育成が重要。
- ・隣近所との交流促進が地域づくりの第一歩。
- ・障がい者就労事業所などへ清掃業務をアウトソーシングするなど地域資源として活用する。

以上の意見ができました。

(相田副主査)

2グループ、ありがとうございました。では1グループよろしくお願いします。

(阿部 SC)

1グループです。課題としては、地域のセーフティスタッフや小学校ボランティア、民生委員、生活支援の人材不足が深刻化しているという話がありました。課題に対する解決策として、

- ・「日常的な声かけ」や「普段からのつながりづくり」が重要。
- ・生活支援など地域有志の活動だけでは限界があり、コミュニティ協議会や地域事業所との連携・支援体制の強化が必要。

以上の意見ができました。

◇次第3 グループワーク（3）総評

(相田副主査)

ありがとうございました。ここでグループワーク全体を通して青木委員長より総評をいただきます。青木委員長、よろしくお願いいたします。

(青木委員長)

長時間にわたって議論いただきました。ありがとうございました。お話を聞いて思ったこと

をいくつかお話ししていきたいと思います。

まず、「いきいき西区ささえあいプラン」に関わらせていただいて今年2年目になるかと思うのですが、各地区の取り組みを聞かせていただいて、昨年度に比べてやはり活動の幅が広がるというか、厚みが増しているなという気がします。新潟市内八つの区がありますけれども、やはりさすが西区だなというところを正直思います。これだけ数もあるし、おそらく上手くやっているところを真似てみようとか、うちもやってみようというような形で、膨らみながら厚みが増しているなという思いが一つしています。

それから先ほどの各地区の活動報告の中で、コロナ禍で活動が一旦途絶えていますというところが結構ありました。私は、それをマイナスとして捉えるというのではなくて、むしろプラスに捉えたときに、地域活動の棚卸しと私は表現しているのですが、要は、コミュニティ協議会ができて20年くらいだと思うのですが、その中で、例えば20年前に始めた活動が、悪いけれども補助金がずっとついているのでやめるにやめられないみたいなことが仮にあったときに、このコロナ禍を一つの契機として活動が止まって、そして地域の人たちがやはり大事だから再開させようとか、もう一回これを復活させようというような動きがあれば、それは本当に地域にとって必要なものなのだと思うのです。だけれども、なくて誰も困らないとか、なくなったことすら誰も発言しないものというのは、もしかしたら地域の中ではあまり支持もされないで、必要とされなかったものなのかもしれません。そういうこともコロナが完全に終息しているわけではないとしても、地区ごとに改めてこれまでの活動の棚卸しといいますか、見直しをしていくということは大事だなと思ってお話を聞いていました。

それから、いくつかの地区で民生委員と自治会長とのコミュニケーションをとる場面がありましたよね。これは本当に大事な機会だと思っていますし、これをやる意義として、コミュニティ協議会がやるとか社会福祉協議会がこの役割を果たすというのは極めて重要なことだと思っています。ご承知のとおり、民生委員と自治会長がしっかり上手くいっている地区は安心して暮らせるのです。逆にそのお二人が反目し合っているところというのは、本当にガタガタになりますよね。そうならないように、先ほど4グループからも発言があったように、今年の11月30日をもって現在の民生委員が一斉に終わります。翌日の12月1日から全国一斉に民生委員が再任される。その中には、民生委員に初めてなるという人もいれば、中には民生委員何期目というベテランの方もいらっしゃると思います。中には自治会長が1年で交代していくところ、場合によっては1年以内、数か月で終わってしまうようなところもあるようです。1期3年腰を据えて活動できる民生委員は地域の人たちから頼られる存在ではあるのだけれども、実際は誰がやっているか名前も分からないとか、自治会長と民生委員が1年に一度でもいいのだけれども、お互いに膝を突き合わせてお互いの顔を覚えて地域のことを語り合うような場面を、皆さんの地区社会福祉協議会やコミュニティ協議会の中でその場をつくっていただけるという

のは本当に重要なことだと思っているので、ぜひここはお願いしたいと思って聞いておりました。

あと、今日の発表でいくつかのキーワードを見ていく中で目に留まったのが、ラジオ体操という言葉が目につきました。皆さん、ラジオ体操の音楽が流れると自然に体が動きますよね。これは、お年寄りから子どもからみんなです。年輩の方だと確実にラジオ体操第1と第2は覚えていらっしゃると思いますよね。これは、子どもも一緒のことですので、子どもからお年寄りまで共通にできることを探したときに、やはりラジオ体操は最初に出てきます。実は2年前に阿賀町の地域福祉活動計画を作るときにグループワークをしたのですが、あるグループから今年はラジオ体操を子どもたちとやるという話がありました。なぜかという、NHKラジオの朝の体操が阿賀町に来ることになったからなのですが、残念ながら当日大雨で流れてしまったのです。でもラジオ体操をきっかけにしながら地域がまとまったという話を聞いたことがあるので、バカにできないなと思って聞いていました。今日このささえあいプランの振り返りシートの中にラジオ体操の言葉が何回か出てきているので、非常に興味深く拝見したところです。

次に今日のテーマである地域の人材不足について、PTA活動などを熱心にやった人を地域活動に引っ張ってくるとか、あと感謝の言葉というところが出てきています。これは私も同感です。皆さんも共通して認識があると思うのですが、今こうして様々な地域活動やコミュニティ協議会、地区社会福祉協議会の活動に参加されていますけれども、最初はやはり関わりを持つときに、ずっと関わると負担だなとか、もしかしたら何か犠牲にしないと続けられないかなとか、一回首を突っ込んだために抜けられなくなったとか、多分様々な思いをもってやっていらっしゃる方もいると思うのです。それは、ほかの一般の方も同じことなので、まずこの地域の活動というのは、気軽に参加して、極端に言えばいつ抜けてもいいよくらいの、気軽な参加の形態を作っていくことが大事かなと思います。ただ、ボランティア活動を一生懸命やっている人からすれば、地域の活動やボランティアもきちんと責任をもつべきだと考える方もいらっしゃると思いますが、一般の人たちの心情からすると、関わりたい、地域のために汗を流したいと思っている人はたくさんいるのだけれども、そこに関わったら抜けられなくなるのではないとか、重い責任や重い役割を担わされるのではないかと思うから躊躇している面があると思います。そうであれば、いきなり会長をやってくれ、リーダーをやってくれというのはみんな拒まれるので、やんわり自然と輪の中に取り込まれるような感じで参加してもらおうというのが一番いいのかなと思います。そのときに大事なキーワードが、先ほどの3グループで出てきたとおり、感謝の言葉、あとは感動という言葉、いずれも「感」という言葉が出てきますけれども、これは別の言葉で言うと、例えば心が震えるとか、琴線に触れるとか、人間はよかったな、楽しいなと心が震えたときに、多分活動は続くのだと思います。その逆に、苦痛なことを与えられたら二度としたくないと思ってしまいますので、地域活動は楽しいことばかりでは

ないとしても、この感動と感謝ということを常日頃念頭に置きながら、何かプログラムを立てたり、あとは日頃皆さんが新しく参加した人に対して本当に参加してくれてありがとうという言葉をつかけるとか、そういう細かいことの積み重ねが地域の活動者のすそ野を広げることにもつながるのかなと思って聞いていました。

あと、地域別計画振り返りシートに出てきたものの中で、一つ感心したのは、真砂小学校区の「令和7年度取り組んでいきたいこと」の中で、「若い人だけに限る行事をして、時間をかけて担い手を育成する」と書かれているところがあるのですが、これはすごく大事で、とにかく地域の様々な活動や行事は、比較的年輩の方を中心として企画されがちなところがあるのですが、若い人にとにかく我々年寄りには金を出すけれども一切口は出さない、その代わりに地域の若い人たちをみんな取りまとめてどうぞ好き勝手にやってくださいくらいの勇気をもってやると、場合によったら若い人たちも何かやろうと思ってまとまって動いたりということがあるのかもしれない。ただそれも仕掛けの仕方だと思うので、こういうことを実験的にやってみられたようですが、これも大事な取り組みかなと思って聞いていました。

あとは人を活かしていくために、これも振り返りシートの中に出てきますが、例えば「ながら」ですね。犬の散歩なのだけでも、それをしながら子どもたちの様子を見守るとか、そういう活動というのが、悪いけれども気軽ですよ。本来の目的は自分の愛犬を散歩させるのだけれども、どうせ回るのだったら地域の様子や地域の危険なところを探しに行くとかということで、副次的にやること自体で活動を広げていくという、そういうことも大事なかなと思います。例えばお隣の家のお婆ちゃんが免許返納して買い物に困っているのであれば、自分の家は定期的に車で買い物に行くのだから、隣の家のお婆ちゃんにこれから買い物に行くのだけれども何か買ってきてやりましょうかみたいなことなども、個別的なことでのポジティブな活動だろうと思います。あともっと言えば昭和の時代などはお裾分けなどということは当たり前に行っていましたよね。今の時代、お裾分けと言ってお隣からいきなり煮物が届いたりするとびっくりしますが、信頼関係があるからこそお裾分けができるのであって、そういう隣近所の付き合いみたいなところは見習う必要があるかなと思って聞いていました。

最後になりますけれども、鹿児島県の鹿屋市というところに柳谷（やなぎだに）集落、通称やねだんという地域がありまして、10年くらい前にそこに行ったのですが、そこにいる自治公民館長、新潟で言えば自治会長の豊重哲郎さんという人、この方は何回か新潟にも来て講演されていて、その方がいわゆる地域づくりで全国的にすごく有名になって、色々なところから賞をもらったりしている方がいらっしゃいます。その人が、先ほど言っていた感謝とか感動ということがないと人は動かないと言っていたのです。豊重さんが言っている言葉ですごく印象的なのが、リーダーは絶対に命令しないと言うのです。その代わり行事があった時には、最初に率先して辛いような地域の作業に出る。そういうところを周りで色々な人たちが見て、あいつ

は見上げたものだと言って地域から一目置かれるような存在になっていく。ですから一足飛びに地域リーダーにはなれないのだけれども、まずはそのようなことを繰り返しながら地域を束ねていった人でもあるということです。それから10年くらい経ちますから、今は確実に自治会長を下りているはずですが、豊重さんに会ったときに大変失礼ながら「豊重さんがいなくなったらこの地域はどうなってしまうのでしょうか」ということを質問したのですが、きちんと後継者を育てていますとはっきり言われました。後継指名してやるということは、少し民主的ではないかもしれないけれども、自分が苦勞してやってきたことをきちんと次の世代に託す準備を確実にしていたというところがすごいなと思います。ですから、皆さんの地域、または自治会、コミュニティ協議会の中でそういうことはすぐに真似はできないけれども、先ほどの4グループですか、発言があったとおり、色々な活動をしている人をとにかく一本釣りしたり、こういう活動に参加できている人をとにかくピンポイントで見えていくことですよね。そして、こういう活動をするときに、この人を引っ張り込んだらいいのではないかと、そのように考えながら地域のリーダーを養成したり、あとは地域の活動者を増やしていくということがこれから大事になってくるのではないかなと思います。これをやれば確実に地域の活動者が増えるなどという妙案はないのですが、ないからこそ色々なことを試しにやってみて、すそ野を広げていくということしか方法はないのかなと思ってお話を聞いていました。

まずはそれを中心となってやっていらっしゃる皆さんの存在が何よりも大事ですので、お体を大事にして、活動をぜひ継続していただいて、後進の育成を考えていただければよろしいかと思います。

(相田副主査)

青木委員長、ありがとうございました。これで次第3「グループワーク」を終了いたします。

◇次第4 事務連絡

(須貝係長)

皆様、長時間にわたりありがとうございました。次第4「事務連絡」ですが、事務局よりお願いします。

(小池上事務局長補佐)

それでは、2点事務連絡をさせていただきます。西区社会福祉協議会の小池上です。

1点目です。昨年度も開催しておりますが、今年度も12月に地区懇談会に向けての勉強会を開催する予定です。開催日は12月12日金曜日の午後、会場はここ健康センター棟3階の大会議室を予定しております。内容につきましては、現在、青木委員長とも相談しながら調整しております。近くなりましたら改めてご案内いたしますので、お繰り合わせくださいますようお願いいたします。

2点目です。西区社会福祉協議会では、イオン新潟青山店にて「社協のひろば」と題して、講座を毎月開催しております。来月は「住み慣れた地域で安心して暮らすために、助け合いカードゲーム」と題して、本日ご出席の支え合いのしくみづくり推進員を講師に迎え、講座を開催します。日時は10月21日火曜日午後2時から、会場はここ健康センター棟3階大会議室です。ご近所での助け合いをゲーム感覚で学び、小さな困りごとを気軽に頼める「お互いさま」の関係づくりを体験できるものとなっています。地域での取り組みのヒントになるかと思いますので、皆様にもご参加いただきたくご案内いたします。「社協のひろば」の担当職員も本委員会に同席しておりますので、お帰りの際、是非お声かけください。事務連絡は、以上です。

◇次第5 閉会

(須貝係長)

閉会にあたり岩城副委員長より挨拶をいただきます。岩城副委員長、お願いします。

(岩城副委員長)

皆様、お疲れさまでございました。私なりに感想を考えましたが、自治会長と民生委員の情報交換は避けて通れないような時代だと感じました。ただ私の地区でも民生委員が4名、おそらく来期は欠員になりそうなので、情報交換したくてもなかなか民生委員のなり手がなく難しくなっており、そういう状況を踏まえてこれからの活動をしていかなければいけないと感じました。また、防災訓練をやっているところがけっこうあるということですが、やはり学校との連携が大事ではないかなと思っています。学校に持ち掛けますと、大体は了承してくれますので、先ほどお話しが出た備蓄品の確認とか、色々な面で連携することが大事だと感じました。それから終末期医療の勉強会をやったら非常に人が集まったという話は当地区なのですが、50人も来まして、終末期医療というと何か暗い話でどうかなと思ったのですが、このように興味をもって切実な思いをもっている方がたくさんいるのだなということも感じました。また福祉というどうしても老人のほうに関心が向きがちですが、乳幼児を抱えた母親の方というのはかなり疲弊しているのですよね。そういう意味で赤塚地区のあひるの子とか、五十嵐のふうせんクラブのような乳幼児と母親をサポートするものがもっと広がってもいいのかなとも思いました。先ほどこれからの人材づくりで真砂小学校区の例が出ましたが、やはり核になる方の確保というのは非常に大切になるのではないかと思います。本日は実りの多い話し合いになったのではないかと思います。皆様大変お疲れさまでございました。

(須貝係長)

ありがとうございました。以上で「令和7年度 第2回 いきいき西区ささえあいプラン推進委員会」を終了いたします。皆様、長時間にわたり大変お疲れ様でした。